

令和3年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立高美が丘中学校

教育目標		知・徳・体の調和がとれ、思いやりと行動力のある生徒の育成				評価		4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る 1・・・目標をかなり下回る
経営理念		〈ミッション・ビジョン〉 生徒・保護者そして地域との信頼関係を基盤とし、地域とともにこれからの時代を担う生徒の育成をめざす学校 ～学びたい 学ばせたい やりがいのある学校～						
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況
						7月	1月	
学習指導	1	○「主体的な学び」を推進し、思考力・表現力を高める生徒の育成 (主体性・表現力) 「課題発見・解決学習」を手立てとして	自分から進んで「学び」に向かう生徒の育成	・各授業で、主体的な学びを推進する。 ・家庭での自主学習を計画的に実行させる。	・生徒学習意識調査「授業では、進んで学習している。」肯定的評価90%以上 ・自主学習時間1日1時間以上90% ・課題提出100% ・学習面談年間2回以上	3	3	・7月：87.1%⇒87.6%○ 家庭学習の重要性を伝えたり、自主学習や課題提出の習慣化を図るよう継続して指導したりすることで、自主学習の取り組み時間や学習に対する肯定的評価は7月より上がった。学年が上がるにつれて達成率は高くなっており3年生では目標を大きく上回っている。今後も、自らの進路を意識させ、学習意欲の向上に対する組織的な取り組みを継続していく。
			自分から課題を発見し解決できる生徒の育成	・各授業で、課題を発見し解決できる取組を行う。	・生徒学習意識調査「授業では、学習課題を見つけ、解決している。」肯定的評価90%以上	3	3	・7月：80.3%⇒80.1%△ 各教科で年間指導計画に位置付けられた課題発見解決学習に取り組み、アンケートの結果は、3年生92.5%、2年生83.8%、1年生67.6%だった。課題発見解決学習については、校内研修や授業交流により、取り組みを充実させていく必要がある。
			自分の「学び」や意見を表現できる生徒の育成	・各授業で、コロナ禍の中でも生徒が意見を表現できる場を工夫して学習等を行う。	・生徒学習意識調査「授業では、自分の考えを発表している。」肯定的評価90%以上	2	2	・7月：60.7%⇒64.2%○ 7月のアンケート結果と比較して、2年生は21.0ポイント上がったが、3年生は14.3ポイント、1年生は11.9ポイント下がった。2年生は、学年での「全員発表」の取り組みの成果と考えられる。今後、多くの生徒が発表できるような学習形態の工夫や場を設定し、発表しやすい雰囲気づくりをすることが課題である。
			自分で積極的に情報を収集・選択・活用できる生徒の育成	・図書室またはPC教室やタブレットを利用した調べ学習、まとめ学習等の取組を一年以上行う。	・生徒学習意識調査「授業では、ICTを活用して調べたり、まとめたりしている」肯定的評価90%以上	2	4	・7月：74.7%⇒90.5%◎ 夏以降、いろいろな教科でタブレットを使った学習やリモート学習を行うことで、ICT機器を活用することができるようになってきた。今後もICTの有効活用について考え、生徒自身が学習のツールとして選択できるようにしていく。
生徒指導	2	○これからの時代に生きる基盤として、思いやりや行動力を持った生徒の育成 (社会性・協調性) 「寄り添い・かかわりきる生徒指導」を手立てとして	「生活三訓」を意識して生活できる生徒の育成	・生徒会活動・部活動を軸とした自主的な取組を推進する。	・生徒生活意識調査「私は、生活三訓を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	4	4	・7月：97.8%⇒97.5%△ ①挨拶②時間厳守③整理整頓のいずれも肯定的評価の割合は90%以上である。中でも挨拶に関しては、あいさつロードの取組やマナー講座などを通して、価値を再認識できたことが数値を向上させた。しかし、時間厳守と整理整頓には課題が残り定着していないため、やり切らせる指導を、継続し習慣づけていく必要がある。
			自分の役割を意識して行動できる生徒の育成	・縦割り集団による委員会活動や部活動の充実を図り、行事や大会での成功体験を基に生徒の自主性を育成する。	・生徒生活意識調査「私は、自分の役割を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	4	3	・7月：97.2%⇒94.5%△ 目標は達成できているが、依然として分担した役割以外の働きに関しては、係任せになってしまっている場面が見られる。数値の減少した背景には、生徒のメタ認知能力の高まりもあると考えるが、どのような姿が「役割を意識して行動している姿」なのか具体的にイメージさせるなど、改善に向けて取り組んでいきたい。
			自他ともに大切にできる生徒の育成	・学校生活の中で長所を見つけ伝え合う場を設ける。 ・生徒の関わり合いの場を授業・部活・委員会活動の中で意識的に設定する。	・生徒生活意識調査「私は、自他を大切にし、思いやりを持って行動している。」肯定的評価90%以上	4	3	・7月：97.2%⇒98.0%○ 他者を思いやる言動の肯定的意識は高く、数値も向上した。しかし、1・2年生では関わり合いの働きから、人を傷つけたりなどトラブルも見られた。道徳の時間の充実や意見交流の機会を意図的に設定し、他者理解の望ましいあり方や人権意識を高め、自分から進んで困っている人に気づき、手助けする行動を増やしていきたい。
信頼される学校	3	○『学びたい、学ばせたいやりがいのある学校』づくり (学校組織の活性化、小学校・地域との連携・協働) 「地域づくりの要となる学校」の推進を手立てとして	組織的な学校運営体制の確立と働き方改革を推進する学校づくり	・各主任が課題や情報を共有し、有機的・機能的な取組を推進する。 ・部活動指導方針の徹底、業務改善の推進を図る。	・教職員意識調査「高美中の教職員は、各種取組において積極的に動いている」100%、「子供と向き合う時間が確保されている」80%以上 ・入退校記録「時間外勤務が月80時間を超える教員」0人	2	3	・7月：100%⇒94.7%△ ・77.8%⇒84.2%○ こどもと向き合う時間の確保は改善したが、組織的な取り組みは100%を切った。また月80時間を超える教職員は年間平均値で2人、月毎ではのべ3回超えるなど、一層改革を推進する必要がある結果となっている。その大きな要因となっている部活動指導に関しては、活動のねらいや育成の方針等、より生徒の主体性を伸ばしていくことができる内容への改革が必要となっている。
			コミュニティースクールによる学校運営が活性化する学校づくり	学校運営協議会が推進する「あいさつロード」を定着させるために、児童・生徒・保護者・地域が参加するあいさつ運動の取組の充実を図る。	・あいさつ運動の参加ボランティア(生徒213名以上・保護者100名以上・地域100名以上)	4	3	あいさつロードの取り組みは、緊急事態宣言下や蔓延防止措置下においても、ソーシャルディスタンス確保やその他感染対策を十分とって実施・継続できたことは成果である。ただし、PTA全員会で当番を割り振っているにもかかわらず参加率が低く、固定化する傾向がみられ、あいさつロードの意義の周知したり全体へ広げていく改善策を協議して進めていく必要がある。
			「学校緑化活動」を発展・継続させる学校づくり	・学校緑化活動の年間を見通し、計画的に推進する。	・生徒・保護者・教職員意識調査「私は、積極的に学校緑化活動に参加した。」「学校は、積極的に学校緑化活動を行っている。」肯定的評価90%以上	2	4	・7月：83.7%⇒91.6%○ 保護者100%○ コロナ禍2年目の緑化活動は、担当教員を中心に様々な工夫と改善策を企画し、実践したことから生徒・保護者・教職員いずれも昨年度より高い値を示した。来年度は、より組織的に活動が推進できるように、専門化されたところは汎用化し、取り組みが互いに確認し合える”見える化”を図っていきたい。
			小・中9年間の学びと育ちを充実させる学校づくり	・小6と中1のつなぎを意識した小中連携を行う。	・小中学校間連携年間10回以上 ・小中合同30周年記念事業を成功に導く	3	3	小中接続教育の推進に関しては、コロナ禍の対応が増えるなど、小学校・中学校ともに日程調整することが難しく、計画通りの実践はできなかったが、その中で30周年記念事業に向けて児童・生徒が考えた共同作業が、ひまわりの種付けやあいさつロード協働清掃作業など、新たな連携の動きが生まれ、前進があった。今後、如何に発展していくかが大切になる。
改善の方向性								
〈学習指導〉		○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善と工夫 ○各種検定への受検(3年生) ○学力補充学習の充実と学習習慣づくりの支援 ○学習に対する面談を定期的に行い意欲喚起 ○図書環境の充実と読書活動の充実				学校関係者評価(外部評価)		
〈生徒指導〉		○いじめアンケートの計画的実施等による未然防止 ○生徒委員会等の取組を通じた「生活三訓」の日常的実践 ○不登校生徒の状況把握、情報共有、保護者連携及び関係機関等との連携・充実 ○生徒へ寄り添い、かかわりきる指導の徹底 ○生徒指導の三機能を活かした授業スタイルの確立						
〈信頼される学校〉		○組織的な学校運営体制の確立、働き方改革の推進(子供と向き合う時間の確保、長時間勤務の縮減) ○「学校緑化活動」を通じた保護者、地域との連携のさらなる充実 ○学校だよりの配布及びHPの更新 ○コミュニティースクール実施による積極的に地域連携の充実 ○小中連携による挨拶運動、授業交流、合同研修会など積極的な交流活動の実施						